

常設展示室 近世～近代史料コーナーのキャプションの改善について ～市民学芸員「展示替え検討会 解説パネル検討班」との協働～

木村 弘樹

はじめに

当館では、平成 26 年 3 月から館で活動している市民団体の方々と展示検討会を設置している。この展示検討会には、民俗分野の展示を検討する「三テーマ検討班」(注¹)、現状からさらにわかりやすい案内解説を検討する「解説パネル検討班」、展示室において来館者がより展示に親んでもらうためのクイズを設置する「クイズ検討班」がある。

今回は、昨年の中世史料コーナーの解説パネルの改善に続き、筆者が関わることとなった解説パネル検討班(以下「検討班」と記す)による近世～近代史料コーナーのキャプション改善について紹介したい。

経 過

常設展示の近世～近代史料コーナーの現状は、別添写真 1 のとおりである。概略を示すと、展示ケース①、②は、江戸時代の領主、村落、入会状況、新田開発などにかかわる史料展示である。次に、展示ケース③は、江戸後期から幕末期の俳句、剣術などの相模原の農村に流入した文化にかかわる史料展示である。そして、展示ケース④は、明治期の近代国家への動きや自由民権運動にかかわる史料展示である。

なお、これらのケース内の展示物のうち、原史料については、史料保護のため照明を暗めにしており、さらに半年ごと交互に史料の入れ替えを行っている。

検討班では現状の展示内容、各史料や解説パネルの展示方法などの状況を確認し、次の問題点を見出した。

- (1) 旧キャプションが古く、かなり褪せてしまっている。
- (2) 史料名にルビを追加した方が良いものがある。
- (3) キャプションが位置、角度、照明具合により、見えにくいものがある。
- (4) 説明文がわかりにくいものがある。

これらの問題点について検討班内で協議し、次のとおり改善案を作成した。

- (1) 白地に黒字の新たなキャプションを作成する。(半年で交互に入れ替わる分もまとめて作成)
- (2) わかりにくい史料名にはルビを加える。
- (3) キャプションの位置や角度について、照明及び来館者視線を考慮し修正。
- (4) 必要に応じて説明文を修正する。(説明文の修正については筆者と相談の上、作成)

検討班で作成したキャプション案を筆者にて確認した後、平成 29 年 2 月 1 日(水)に、展示替え作業を実施した。当日作業は、市民学芸員らの畠山氏、進藤氏、高橋氏、水田氏の 4 名と筆者の 5 人で行い、キャプションの入れ替え、位置や角度の調整・変更などを行った。その結果、来館者視線を考慮した見やすいキャプションに改善された。

今後について

今回は、近世～近代史料コーナーの展示替えを行ったが、今後も引き続き検討班にて改善に向けた検討を重ね、常設展示室内においてより見やすくわかりやすい解説パネルの展示替えを行っていただく予定である。特に、次年度は、考古資料コーナーの改善を予定しており、既に様々な改善に関する意見が出ているので検討班の活動に期待しつつ、筆者としてもより良い展示になるよう取り組みたい。

注 1 民俗分野の展示があるゾーンを「三テーマ」と呼んでいるため、「三テーマ検討班」と言っている。

写真1 近世～近代史料コーナー(右奥から順にケース1、2、3、4)



写真2 展示替え風景



近世～近代史料コーナーキャプション改善例の(一部) *必要に応じてルビ、説明文修正を行った。

